

ラックの価値創造

ITとセキュリティのプロフェッショナルとしてのあゆみ

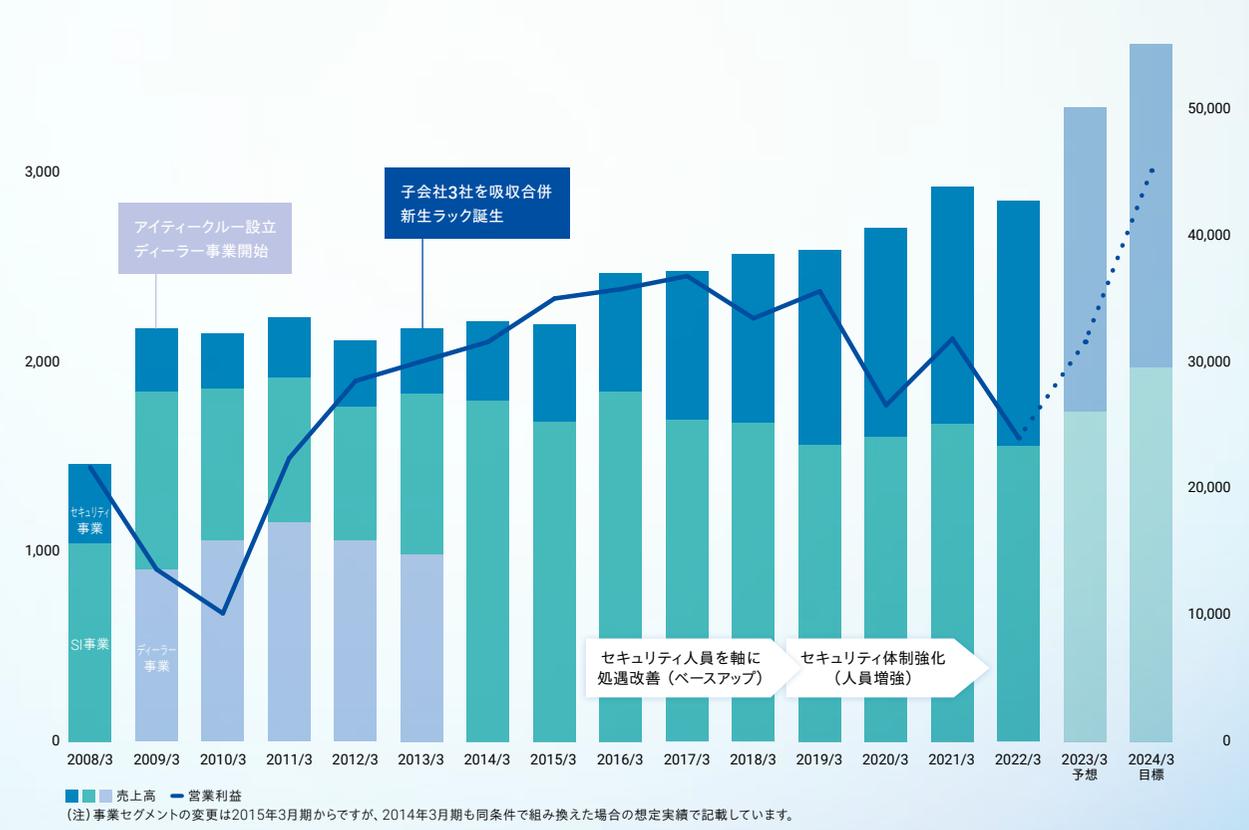
現ラックは、1986年にシステム開発会社として設立した「旧ラック」と、1987年に設立し金融機関の基盤システムの構築・運用を手掛けてきた「イー・アンド・アイ システム」の2社が2007年に経営統合し、さらに2008年にサーバやネットワーク機器を仕入・販売する「アイティークルー」が加わった後、2012年に3社が事業統合して今に至っています。



1986年
旧ラック設立
システム開発会社として、日本IBMを主要取引先に事業を展開

1987年
イー・アンド・アイ システム設立
エービーシ(現・富士ソフト)と日本IBMの合併会社。富士銀行(現・みずほ銀行)の基盤システムの構築・運用を手掛ける

2007年
経営統合
ラックホールディングス設立



ラックの歴史

1995年
情報セキュリティ事業 (診断サービス) 開始

2000年
緊急対応サービス、監視サービス開始

2002年
セキュリティ監視センター「JSOC® (Japan Security Operation Center)」開設

2009年
「サイバー救急センター」ラックセキュリティアカデミー開設

2014年
研究部門「サイバー・グリッド・ジャパン」開設

2017年
「JSOC®」リニューアル

2018年
「アジャイル開発センター」開設

2021年
「金融犯罪対策センター」開設

社長メッセージ
ラックの価値創造
価値創造の方向性
価値創造を支える取り組み
データ

ラックの
強み

サイバーセキュリティへの 高度な先見・知見・技術

総合的なセキュリティサービス
構築してきた
セキュリティの先駆者として

当社は1995年に、診断サービスから国内初のサイバーセキュリティ事業を開始しました。まだサイバー攻撃への対処法が定まっていない時代、お客様の要望に応え、サイバー被害に緊急で対応する「サイバー119」、実践的な教育・訓練サービスを提供する「ラックセキュリティアカデミー」といったサービスモデルを構築してきました。

日本最大級のセキュリティ監視センター「JSOC®」では、24時間365日、お客様のネットワークをリアルタイムで監視しており、総合的かつ先端のセキュリティサービスを提供しています。



高度な技術・ノウハウを有した
セキュリティエンジニアによる
専門サービス

ラックの特徴は、高度な技術とノウハウを持つ「セキュリティエンジニア」によるサービスを提供できることにあります。

サイバー被害が起きた現場対応のほか、サービスを提供するなかで未知のマルウェアや攻撃手法を検知することにより、日々、セキュリティ対策の知見を蓄積しています。

このような現場で独自に得られる最新の脅威情報をセキュリティ対策の高度な知見（インテリジェンス）として活用できることが強みです。

セキュリティサービス
エンジニア数
国内
最大規模



ラックの
強み

安定した収益を生み出す システム開発

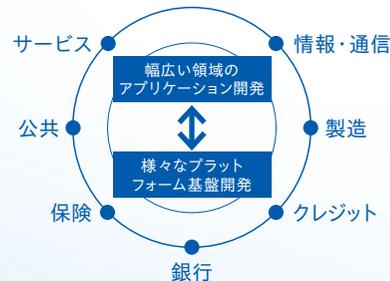
金融をはじめ
大手企業を軸とした
確固たる事業基盤

独立系ITベンダーとして、30年以上にわたり基盤システムやITインフラを開発してきました。メガバンクなどの銀行や大手保険会社などを中心として、大手企業を軸とした確固たる事業基盤を有しています。

また、メインフレームからスマートフォンアプリの開発まで、幅広いプラットフォームの基盤構築とアプリケーションの設計構築に精通しており、様々な企業のDXを総合的に支援しています。



※ 開発サービスにおける割合

ラックの
強み

専門分野の技術と情報を 集約するユニークな組織や センター群

常に進化し続け成長していく
ユニークな組織や人材



専門的な技術や情報、知見を持って、お客様の課題を解決する組織やセンター群を擁しています。また、多様な分野の人材育成とあわせ、専門スキルを評価する人事制度などを充実させ、今後の成長と発展を担う人材の育成・確保に努めています。

IT&サイバーセキュリティの分野で、当社が活躍する場はますます広がっています。

- JSOC®
国内最大規模のセキュリティ監視センター
- サイバー救急センター
サイバー攻撃被害の救急対応を24時間365日実施
- ラックセキュリティアカデミー
専門分野講師による実践的情報セキュリティ教育
- サイバー・グリッド・ジャパン
セキュリティ・経済安全保障を含む国防・ICT利用啓発等の研究
- ラックテクノセンター秋葉原
自動車・IoT機器・種々の社会基盤システムや事業システムに対する侵入テストを専門に行う技術拠点
- アジャイル開発センター
アジャイル開発手法を用いた開発やエンジニア支援
- 金融犯罪対策センター
金融犯罪被害の相談と対策支援、防御技術の開発

事業環境と重要課題

デジタル社会へと変革していく一方で、サイバー犯罪・攻撃の悪質化など様々な障害が生じるものと考えられます。ラックはこのように急速に変化する社会に対し、中期経営計画(2021~2023年度)を策定して取り組んでおり、パーパス・ビジョンへの実現とあわせて、成長機会獲得やリスク低減などの重要課題への対応を進めていきます。

2030年までに想定されること

DXと技術革新で急速に変化する社会

外部環境

- 社会・企業のDX超加速
- デジタルデータ連携と活用
- サイバー攻撃の激化・高度化

↓

機会

- デジタルが人々の生活をより快適で豊かにする
- 通信基盤のさらなる発展(2030年 Beyond 5G開始)
- 社会サービスのフルデジタル化
- データ集約、パスワードレスなど本人確認の進化
- あらゆるものがつながる(IoT拡大)
- 様々な産業や企業間のデータ連携による新市場の創造

↑

リスク

- デジタルシフトに伴う様々な障害
- システムのブラックボックス化や肥大化、相互連携の複雑化による予測困難な障害など
- サービス開発・運用サイクルの超加速
- サイバー犯罪・サイバー攻撃の悪質化・高度化・増加
- サイバー攻撃に起因した事業のとん挫
- DX・セキュリティ人材不足とデジタル活用力不足

▶▶ ラックにとっての重要課題

	重点課題	取り組み
成長機会獲得に向けた重要課題	サイバーセキュリティの知見と予見によるリーダーシップの発揮	<ul style="list-style-type: none"> ● 成長分野のクラウドソリューションの強化 ● ランサムウェア(身代金要求型)攻撃のソリューション強化 ● 内部不正対策のソリューション強化
	高度な知見のデジタル化を通じた機動的なサービス展開	<ul style="list-style-type: none"> ● AIなどを用いた、セキュリティ事業の知見のデジタル化統合活用 ● デジタル化ノウハウを活用した、顧客の事業運営支援
	経営・事業のDX化による経営の高度・効率化	<ul style="list-style-type: none"> ● 経営・事業管理の徹底したデジタル化と業務プロセス変革 ● 独自事業基盤システムの整備 ● 自社デジタル化の知見の顧客サービスへの還元
リスク低減のための重要課題	E オフィス業務の環境負荷低減	<ul style="list-style-type: none"> ● 紙の適正利用 ● 電気の適正利用 ● 3Rの推進
	S サイバーセキュリティとIT業界への貢献	<ul style="list-style-type: none"> ● 産学連携による人材育成 ● セキュリティ団体の事務局・運営の支援 ● 地域における啓発活動支援、地域巡回啓発活動 ● 若手人材育成支援 ITスーパーエンジニア・サポートプログラム「すごうで」の実施
	多様な働き方の実現	<ul style="list-style-type: none"> ● 女性活躍推進 ● 障がい者活躍推進 ● 新卒採用の推進 ● テレワークによる働き方改革推進 ● 健康経営の推進
	次世代人材の開発	<ul style="list-style-type: none"> ● 新入社員研修の推進 ● 階層別・専門別教育の推進 ● 「ラックユニバーシティ」による人材育成 ● 働き方改革と連携したスキルアップの推進
G	透明性が高い強固なガバナンス体制の実現	<ul style="list-style-type: none"> ● 取締役会や任意諮問機関の独立社外役員比率の向上 ● 委任契約型の執行役員制度の導入 ● リスク統括委員会を中核としたリスクマネジメント推進体制の構築 ● コンプライアンスポリシー、企業行動規範、社員行動指針の周知徹底

